

雄冬地区における海上調査による海鳥の繁殖記録

長谷部 真・岩澤光子・石郷岡卓哉・善浪めぐみ

〒078-4116 北海道苫前郡羽幌町 北海道海鳥センター友の会

Records of Seabirds Breeding on Ofuyu Region by Boat Survey

Makoto HASEBE, Mitsuko IWASAWA, Takuya ISHIGOUOKA and Megumi ZENNAMI

Hokkaido Seabird Center Support Club, Haboro-cho, Tomamae-gun, Hokkaido, 078-4116 Japan

Abstract. We surveyed seabirds on Ofuyu Region, Hokkaido (43°44'N 141°20'E) by boat line transect in June 2011. Seven seabird species: Arctic Loon *Gavia arctica*, Sooty Shearwater *Puffinus griseus*, Japanese Cormorant *Phalacrocorax filamentosus*, Pelagic Cormorant *Ph. pelagicus*, Slaty-backed Gull *Larus schistisagus*, Black-tailed Gull *L. crassirostris* and Rhinoceros Auklet *Cerorhinca monocerata* were found. On seaside cliffs and sea-stacks, 454 nests of Japanese Cormorants *Ph. filamentosus*, 153 nests of Slaty-backed Gulls *L. schistisagus* and five nests of Black-tailed Gull *L. crassirostris* were found. Ofuyu region might have the largest colony for Japanese Cormorants on Hokkaido in 2011.

はじめに

雄冬地区（増毛郡増毛町の南部・石狩市浜益区の北部）は北海道中部の日本海に沿岸に位置する（43°44'N 141°20'E, 図1）。雄冬地区の海岸の国道沿いの崖は落石防止のため改変されている。国道がトンネルを通過する部分の海岸には高さ200mを越える人為的に改変がされていない崖が残っている。過去に陸上からの観察によりウミウ *Phalacrocorax filamentosus* とオオセグロカモメ *Larus schistisagus* の繁殖が確認されたが（島田, 1984; 長谷部, 2011）、陸上から観察可能な部分は赤岩岬や雄冬岬トンネル入口近くなどのごく一部に限られる。我々は雄冬地区の海鳥繁殖地の全体像を明かにするために、海上から海鳥の繁殖状況の調査を行った。

調査方法

雄冬漁港を起点に人為的な改変がされていない崖がある別荘漁港の西側までと、千代志別の南側の海

岸沿いまでの合計23.9kmの区間（図1）を2011年6月6日、6月13日の2回に分けて午前中に船でゆっくり走行し、海岸から100mほど離れた位置から、海上または陸上にいる海鳥を観察した。陸上にいる海鳥を観察した場合、巣の有無を確認した。

調査結果と考察

姿を確認した海鳥はオオハム *Gavia arctica*、ハイロミズナギドリ *Puffinus griseus*、ウミウ、ヒメウ *Ph. pelagicus*、オオセグロカモメ、ウミネコ *L. crassirostris*、ウトウ *Cerorhinca monocerata* であった。このうち陸上で姿を確認したのはウミウ・ヒメウ・ウミネコ・オオセグロカモメだった。海岸沿いの崖・岩場・海上に突き出た岩の上に、ウミウ454巣、オオセグロカモメ153巣、ウミネコ5巣を数えた。

ウミウの巣は別荘漁港の西からカムイエト岬周辺までに確認数の39%にあたる178巣が集中しており（図2a）、この範囲に最大の繁殖地（53巣）があっ

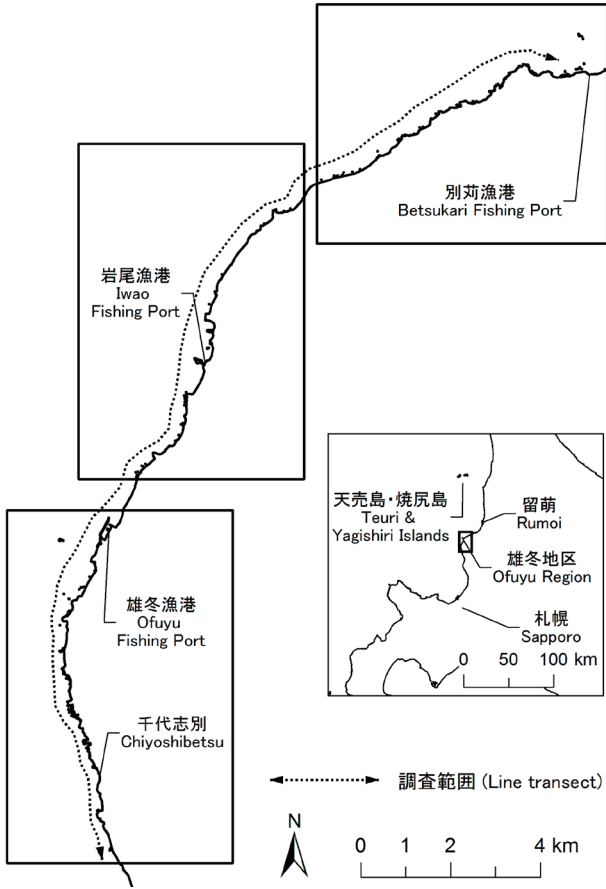


図1. 雄冬地区における海鳥調査範囲
Figure 1. Seabird survey area on Ofuyu region.

た. それより南のマッカ岬周辺から日方岬の南側までの範囲 (図 2b) は同様の環境が広がっているにも拘わらず, 確認数の 0.7%にとどまった. 雄冬港より南側の人為的な改変がされていない崖が広がっている部分に確認数の 55%にあたる 248 巣が分散して分布していた (図 2c). 雄冬地区のウミウ巢数 (454 巣) は同じ年の北海道の代表的な繁殖地である天売島 (219 巣) や知床半島 (439 巣) より多く, 繁殖密度 (19.0 巣/km) は, 天売島 (47.6 巣/km) より低く, 知床半島 (6.6 巣/km) より高かった (天売海鳥研究室, 未発表; 環境省, 未発表). ウミウは北海道全体で 3,000 巣と推定されており (Osa & Watanuki, 2002), 雄冬地区はそのうちの 15% を占める代表的な繁殖地の一つであると言える. 2011 年は上記の 2 つの繁殖地より巣数が多かったことから, 雄冬地区が北海道で最大の繁殖地の可能性がある.

オオセグロカモメの巣数は日方岬より北で確認数の 5%にとどまった一方で (図 2a, b), 雄冬港の南側では確認数の 80%にあたる 123 巣があった (図 2c). 最も大きい 2

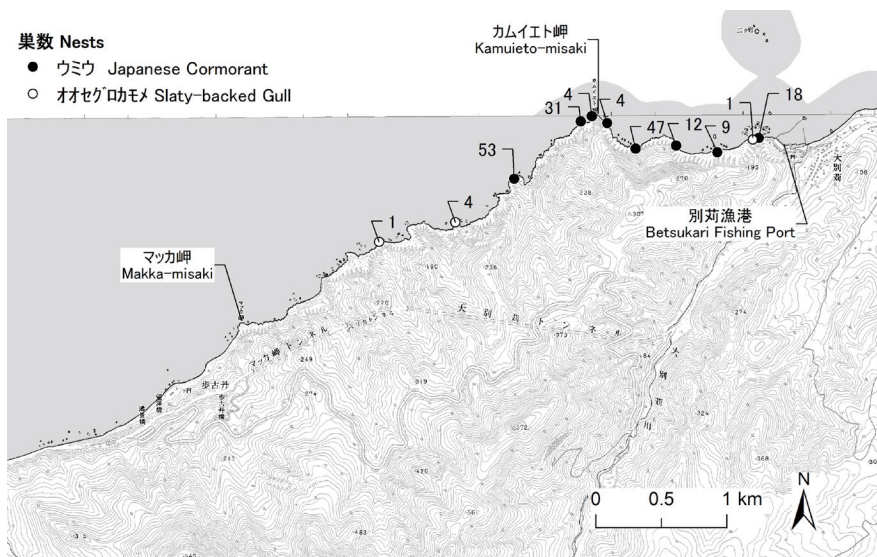


図 2a. 海鳥の巣の位置と数 (別荘漁港西)
Figure 2a. The location and number of seabird nests (in west of Betsukari Fishing Port).



図 2b. 海鳥の巣の位置と数 (岩尾漁港周辺)
 Figure 2b. The location and number of seabird nests (around Iwao Fishing Port).

つの繁殖地 (23 巣, 21 巣) は集落や漁港の近くにあり、港の岸壁に最大の繁殖地があった焼尻島と同じ傾向であった (長谷部ほか, 2011)。雄冬地区のオオセグロカモメの巣数は北海道全体 (10,000 巣, Osa & Watanuki, 2002) の中ではわずか 1.5% であった。

ウミネコの巣を岩尾漁港とつながった岩で確認した (図 2b)。雄冬地区でのウミネコの繁殖は初めての記録となった。このほかに集団が陸上にいるのを数カ所で確認したが巣は確認されなかった。

ヒメウは海岸沿いの岩場で数羽を目撃したが、すべて非繁殖個体で巣は見つからなかったことから、繁殖している可能性は低いと考えられる。

6月6日にオオハム・ウミウ・ヒメウ・オオセグ

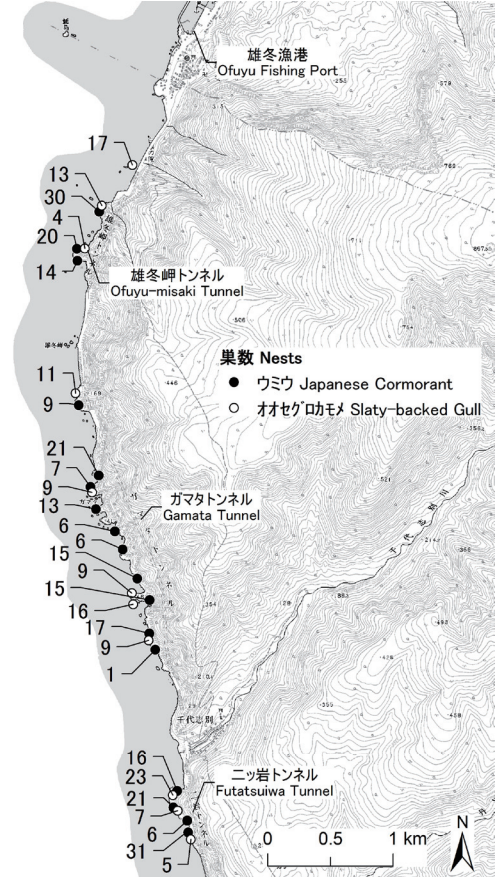


図 2c. 海鳥の巣の位置と数 (雄冬漁港南)
 Figure 2c. The location and number of seabird nests (in south of Ofuyu Fishing Port).

ロカモメ・ウミネコ・ウトウが岩尾漁港沖で集団採餌するのを目撃し、雄冬漁港沖でもハイロミズナギドリ・オオセグロカモメ・ウミネコ・ウトウの集団を目撃した。これらの海鳥の個体数は合計でウトウが数千羽、ウミネコとハイロミズナギドリが数百羽、ウミウが数十羽、オオハム・ヒメウ・オオセグロカモメが数羽であった。一方で6月13日に海上で海鳥の集団は全く観察されなかった。雄冬地区 (天売島から 66-81km) は天売島で繁殖するウトウの潜在的な採餌範囲内にある (平均 84km, 最大 164km, Kato *et al.*, 2003)。北海道のウトウの繁殖地はすべて離島にあることから (Osa & Watanuki, 2002)、ウトウが雄冬地区で繁殖している可能性は低いと考えられる。

本調査では雄冬地区の海鳥繁殖地を大まかに把握することができた。今後も調査を継続することにより、海鳥の巣の位置や数の変化が明らかになることが期待される。

謝辞

本調査の実施するにあたり助成をいただいた(財)北海道新聞野生生物基金と原稿を校正する際にご協力をいただいた葛西真輔氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 長谷部 真, 2011. 雄冬周辺における海鳥の繁殖記録. 利尻研究, (30): 59-60.
- 長谷部 真・伊藤元裕・四方 恵・鈴木優也, 2011. 焼尻島における海鳥の繁殖記録. 利尻研究, (30): 55-57.
- Kato, A., Y. Watanuki & Y. Naito, 2003. Foraging behaviour of chick-rearing Rhinoceros Auklets *Cerorhinca monocerata* at Teuri Island, Japan, determined by acceleration-depth recording micro data loggers. *Journal of Avian Biology*, (34): 282-287.
- Osa, Y. & Y. Watanuki, 2002. Status of seabirds breeding in Hokkaido. *J. Yamashina Inst. Ornithol.*, (33): 107-141.
- 島田明英, 1984. 鳥類. 北海道編, 暑寒別・天売・焼尻国定公園指定促進調査(自然環境)報告書(動物編): 7-24.